

畜産みやぎ

題字

宮城県知事 村井嘉浩

発行所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号

一般社団法人 宮城県畜産協会

電話 022-298-8473

編集発行人

佐野和夫

印刷所

(株)東北プリント



第16回全日本ホルスタイン共進会（令和7年10月25、26日 北海道勇払郡安平町）

もくじ CONTENTS

高病原性鳥インフルエンザの発生状況と発生予防について	2	価格安定対策事業の発動状況について	8
「みやぎ卵と豚の日々のおくりもの市」を開催しました	2	家畜の病気と向き合う	
仙台牛の日消費者交流会開催報告	3	～子牛の防寒対策を忘れずに～	9
moreTOHOKUマルシェ開催報告	3	衛生便り	10
令和7年度宮城県総合畜産共進会（肉豚の部）盛会裡に終了	3	令和8年度宮城県農業大学校入学生を募集します（一般入校試験後期）	10
令和7年度上半期生乳需給状況について	4	畜試便り	11
理解醸成活動2025を開催しました	5	馬事畜産振興の活動報告	12
牛乳消費拡大・理解醸成活動の実施について	5		
第16回全日本ホルスタイン共進会 宮城県代表牛結果報告について	6		
第65回仙台牛枝肉共進会終了報告	7		
家畜防疫互助基金（豚）における生産者積立金追加納付のお知らせ	8		



高病原性鳥インフルエンザの発生状況と発生予防について

宮城県農政部家畜防疫対策室

令和6年シーズンの国内の養鶏場における高病原性鳥インフルエンザの発生状況は、14道県51事例で約932万羽が殺処分となり、特に令和7年1月には発生が急増しました。本県においては令和6年11月石巻市で発生し、約17万羽の殺処分等の防疫措置を実施しました。

令和7年シーズンは、10月22日に北海道の養鶏場で発生が確認されて以降、既に4事例（11月9日現在）の発生があり、殺処分等が実施されています。野鳥での感染確認も10月から報告されており、本病への警戒を厳重にする必要があります。

高病原性鳥インフルエンザの過去シーズンとの比較（初発日、最終確認日）

		R2シーズン	R3シーズン	R4シーズン	R5シーズン	R6シーズン	R7シーズン
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日	9月30日	10月15日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月20日	4月30日	6月17日	
家きん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日	10月17日	10月22日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日	2月1日	

(注) 野鳥の日付は回収日

今年度、国は「対策パッケージ」を公表し、地域一体での飼養衛生管理の強化に取り組むこととされています。また、過去に発生した農場で再発する事例もあることから、本病の発生があった地域は、環境からの発生要因がそろっており、発生リスクが高いことを認識する必要があります。家きん飼養農場においては、日々の健康観察や異常時の早期通報、衛生管理区域への出入り管理、野鳥・野生動物の侵入防止など、基本対策の徹底をお願いします。ヒトの出入り時の手指の消毒、専用衣服等に交換、鶏舎の修繕と整理整頓など、細心の注意を払って発生予防とまん延防止に万全を期するようお願いします。

(衛生安全班 鈴木 歩)



「みやぎ卵と豚の日々のおくりもの市」を開催しました

宮城県農政部畜産課

宮城県では、意欲ある中小規模の採卵養鶏・養豚生産者を支援し、畜産の労働生産性向上・食品産業との連携強化による持続的な地産地消を推進するため、令和4年度から「多様で特色ある県畜産物の生産消費促進事業」を実施しています。

当事業の一環として、令和7年11月7日（金）から9日（日）に、JR仙台駅2階改札前コンコースで、「みやぎ萌と豚の日々のおくりもの市」と題した販売会を開催し、大変盛況となりました。

本販売会には、県産銘柄畜産物の活用に理解のある食品事業者14事業者が出店しました。県産の銘柄卵や銘柄豚肉を活用した多様な商品を販売し、県産銘柄畜産物の認知度向上と消費促進につながりました。



(生產振興班 山崎 保泰美)

(公社) 中央畜産会からのお知らせ

齊 產 映 像 情 報

がんばる！畜産！9

畜産現場の“今”を30分の番組にしました！

畠山現場のデータを30分の留組にしました！
映像を各種研修会、セミナーにて活用ください！

映像を各種研修会、セミナーにて活用ください
配信中の内容：ヨーロッパアルブ酪農の力とチーズ街道
オーストリア・フレグンツァーヴァルト
日本畜産学会100周年 第132回大会総
集編／国際養鶏養豚総合展2024 総集編
ほか



◀スマートフォンからはこちら

▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産



(公社) 中央畜産会 経営支援部(情報) TEL 03-6206-0846

仙台牛の日消費者交流会開催報告

全農 宮城県本部 畜産部

令和7年10月13日（月）に「仙台一隅！仙台牛に出会えるランチ＆バスツアー」を開催しました。

10代から70代までの幅広い年齢層の消費者40名が参加し、司会をフリーアナウンサーの外賀幸一氏が担当しイベントを盛り上げました。仙台駅東口に集合し川崎町のJAファーム川崎肥育牛センターで仙台牛の生産農場を視察、その後仙台市青葉区のクロスピープラスに移動し仙台牛特別メニューを堪能しました。

川崎肥育牛センターでは、子牛市場で導入したばかりの牛（月齢10ヶ月）や出荷間近の牛（月齢30ヶ月）を見学しながら、牛肉生産の川下から川上までの流れなどを説明しました。クロスピープラスでは、ローストビーフ丼、テールスープ、メンチカツ、しぐれ煮、仙台牛ときのこのチーズ焼きを堪能し、消費者からは「普段は値段が高くて手が届かないが、ハレの日などに家族で食べたい」「地元だが仙台牛についてはあまり知らなかった。今後はスーパー等で手に取ってみたい」などの声が聞かれました。

今回の交流会は、一般消費者の方々に仙台牛を身近に感じてもらえるイベントとなりました。

今後も仙台牛の更なる認知度向上・消費拡大につながるような取り組みに尽力してまいります。

（生産販売課 茂木 辰也）

moreTOHOKUマルシェ開催報告

全農 宮城県本部 畜産部

令和7年10月18日（土）及び19日（日）に仙台市一番町4丁目商店街にて、moreTOHOKUマルシェが開催されました。年3回程開催されているイベントで、今回は東北の銘柄牛として「仙台牛」・「前沢牛」・「米沢牛」の3銘柄が出店し、牛串などの販売を行いました。

牛串を購入した方には各銘柄提供店のお食事券や商品券、加工品が当たる抽選会に参加できるなど、3銘柄を十分にPRできるイベントとなりました。天候にも恵まれ、本県の仙台牛を多くの来場者に味わっていただきました。

3銘柄の出店を通して、仙台牛だけなく日本のブランド牛である黒毛和牛の魅力を存分に発信し、和牛の美味しさを楽しんでいただくことができたと思います。

今後も多くの消費者との交流の機会を通じて「仙台牛」の認知度向上・イメージアップに努めてまいります。
（生産販売課 茂木 辰也）

令和7年度宮城県総合畜産共進会（肉豚の部）盛会裡に終了

一般社団法人宮城県畜産協会

農林水産祭参加 令和7年度宮城県総合畜産共進会（肉豚の部）を、以下のとおり開催し、お蔭様をもちまして盛会裡に終了いたしました。

【開催期日】 令和7年10月29日～31日 宮城県食肉流通公社（登米市）
【出品頭数】 112頭

なお、上位受賞者は下記のとおりです。

【名誉賞】	
農林水産大臣賞	
宮城県知事賞	登米市 三塚 正恵
【最優秀賞1席】	
農林水産省畜産局長賞	
宮城県議会議長賞	登米市 (有)ピッグ夢ファーム
【最優秀賞2席】	
東北農政局長賞	加美町 渡邊 耕並
・団体賞	登米地区



左：登米市 三塚 正恵

右：登米市 (有)ピッグ夢ファーム

（経営支援課 伊藤 利樹）

令和7年度上半期生乳需給状況について

東北生乳販売農業協同組合連合会宮城支所
みやぎの酪農農業協同組合

令和7年度上半期（4月～9月）の全国における生乳受託販売実績は、総量3,465,922トンで、前年同期比101.3%と増加しました。地域別に見ると、北海道は2,031,254トン（前年比102.4%）と前年を上回る実績となり、特に6月は前年比103.8%と大きく伸びましたが、都府県では1,434,668トン（前年比99.9%）とわずかに減少しました。

(1) 全国

全国生乳受託実績

(単位：トントン、%)

月 地区名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
		前年比		前年比										
北海道	339,644	102.1	353,705	102.1	341,287	103.8	338,076	102.6	336,504	102.6	322,038	101.1	2,031,254	102.4
都府県	257,699	99.9	262,640	99.8	241,959	99.1	231,213	100.0	222,874	100.8	216,217	99.6	1,434,668	99.9
全国	597,343	101.1	616,345	101.1	583,245	101.8	569,288	101.5	559,379	102.0	538,255	100.5	3,465,922	101.3

(2) 東北

令和7年4月から9月までの東北地域における生乳受託販売量は227,930トンで、前年同期比101.0%と増加しました。県別の実績を見ると、山形県が24,462トン（前年比109.9%）、青森県が34,564トン（前年比103.2%）、秋田県が10,000トン（前年比102.7%）、宮城県が46,487トン（前年比102.4%）、岩手県が88,034トン（前年比100.5%）と前年を上回る実績となりましたが、福島県は24,383トンで前年比89.9%と減少傾向にあり6ヶ月すべてで前年を下回る結果となりました。

東北生乳受託販売実績

(単位：トントン、%)

月 県	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
		前年比		前年比										
青森	5,906	101.7	6,186	103.0	5,867	105.5	5,680	104.0	5,563	103.5	5,362	101.9	34,564	103.2
岩手	14,983	99.6	15,605	100.4	14,543	100.5	14,546	101.2	14,389	102.2	13,968	99.2	88,034	100.5
宮城	8,079	100.0	8,337	100.7	7,840	102.4	7,558	102.4	7,505	106.8	7,168	102.9	46,487	102.4
秋田	1,756	101.9	1,846	103.5	1,671	101.4	1,628	104.2	1,576	103.6	1,523	101.8	10,000	102.7
山形	4,286	110.6	4,460	109.1	4,131	108.5	3,962	110.7	3,876	112.2	3,747	108.5	24,462	109.9
福島	4,779	98.5	4,273	87.0	4,023	88.0	3,801	86.8	3,812	89.2	3,695	89.2	24,383	89.9
計	39,789	101.0	40,707	100.2	38,075	101.0	37,175	101.2	36,721	102.8	35,463	100.2	227,930	101.0

(3) 用途別販売実績

東北用途別販売実績

(単位：トントン、%)

月 用途	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
		前年比		前年比										
総受託販売乳量	39,789	101.0	40,707	100.3	38,075	101.0	37,175	101.2	36,721	102.8	35,463	100.2	227,930	101.0
飲用牛乳向け	27,075	100.1	28,152	97.6	28,020	98.1	27,644	102.8	25,797	100.4	27,370	100.3	164,058	99.8
はつ酵乳等向け	6,073	102.9	6,190	98.7	6,131	102.0	6,453	104.9	5,931	99.8	5,583	102.2	36,361	101.7
特定乳製品向け	6,039	104.7	5,650	115.5	3,242	127.0	2,359	81.1	4,282	123.4	1,863	92.2	23,435	108.4
生クリーム等向け	466	92.3	566	125.0	551	122.1	581	94.6	588	121.0	515	104.6	3,267	108.8
チーズ向け	136	83.6	149	98.3	131	98.9	138	81.9	123	89.0	132	87.2	809	89.4

(4) 宮城県

令和7年4月から9月にかけて、宮城県の生乳生産量は46,487トンとなり、前年同期比で102.4%と増加しました。

令和7年度宮城県生乳受託販売実績

(単位：トントン、%)

月 団体名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
		前年比		前年比										
みやぎの	4,933	101.1	5,094	101.5	4,855	103.7	4,644	102.9	4,637	108.2	4,409	103.5	28,572	103.4
全農宮城	1,171	100.7	1,204	102.2	1,108	103.2	1,095	103.4	1,071	106.5	1,023	103.9	6,672	103.2
宮城酪農	1,975	96.7	2,039	94.4	1,877	98.9	1,819	100.6	1,797	103.3	1,736	100.9	11,243	99.6
宮城県	8,079	100.0	8,337	100.7	7,840	102.4	7,558	102.4	7,505	106.8	7,168	102.9	46,487	102.4

(生産支援課販売係 村田 孝志)

理解醸成活動2025を開催しました

宮城県酪農農業協同組合

宮城県酪農農業協同組合と宮城県酪農農業協同組合青年婦人連絡協議会は、令和7年11月5日（水）に秋保ヴィレッジ「アグリエの森」で一般消費者に向けて、酪農への理解醸成活動を行いました。

当日は宮城酪農職員、宮酪青婦連会員、協力機関、計18名がお揃いの法被を着用し、リーフレットを配布しながら消費者の方々に酪農をとりまく現状を説明。また、牛乳・乳製品セットを特製保冷バッグに入れ無償配布し、牛乳・乳製品の消費拡大PRも行ないました。

用意した300セットはあっという間に無くなってしまう程の大盛況となり、来場いただいた方々からは「毎日飲んでるよ。応援してますね。」「大変かと思いますが、これからも美味しい牛乳を作つて下さい。」など、温かいメッセージをいただきました。

中には「教育現場で働いていますが、最近の子は牛乳を飲まない子も多い。牛乳や酪農の事をもっと子供たちに伝えたいと思います。」とリーフレットを複数希望される方もいました。

宮城酪農と宮酪青婦連は、今後も皆様にたくさん牛乳を飲んでもらえるよう、消費者の方々に酪農・牛乳に対する理解を深めていただける活動を継続して参ります。



(酪農振興課 寺島 慎也)

牛乳消費拡大・理解醸成活動の実施について

宮城県牛乳普及協会

11月7日（金）仙台市アエル2階アトリウムにおいて、宮城県牛乳普及協会の一般消費拡大事業の一環として、みやぎの酪農協青年部本部・婦人部本部の協力のもと、消費者に対する牛乳についてのアンケート調査、理解醸成パンフレットの配布、12月から予定している飲用牛乳消費拡大キャンペーンチラシの配布のほか牛乳の無償配布を行いました。

当日は強風が吹き付けるあいにくの天候でしたが、家族連れの買物客や仕事で行きかう多くの消費者の方が足をとめてアンケートの記入に協力していただき、配布した牛乳も皆さんに喜んでいただきました。

(村田 孝志)

国産の牛乳、お肉、卵を食べてまもろう

畜産物を生産するためのコストが上昇しています。
皆様に国産の畜産物を食べていただくことが生産者の応援に繋がります。

公益社団法人 中央畜産会 × 宮城県畜産協会

全国の畜産会組織は地方競馬の売上の一部を活用して、日本の畜産振興に取り組んでいます。

第16回全日本ホルスタイン共進会 宮城県代表牛結果報告について

宮城県ホルスタイン協会

第16回全日本ホルスタイン共進会が北海道勇払郡安平町の北海道ホルスタイン共進会場で、10月25、26日の2日間開催され、宮城県代表牛4頭を出品しました。5年前は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、今大会は10年振りの開催となりました。

全国からホルスタイン種393頭のエントリーがあり、ホルスタイン種16部門、ジャージー種4部門に分かれ審査が行われました。宮城県代表牛の結果は下表の通りです。中でも、第13部 丸森町 一條薰さんの出品牛は、1等賞7席並びにベストプロダクションを受賞するなど、体型面及び乳量面でも評価される結果となりました。また、第16部 丸森町 (有)半澤牧場さんの出品牛は、今大会最高齢・最高産次の11歳9産での出品となりました。近年、乳牛の改良で求められている“長命連産”を体現した出品牛であり、優等賞4席を獲得した快挙は、本県としては第11回岡山大会に次ぐ5大会振りの好成績であり、スタッフ一同歓喜に沸きました。

今大会は本県の牛群改良を象徴する素晴らしい結果となり、本県の酪農にも明るい話題ができたと思います。次回は5年後に開催されますので、引き続き、皆様からのご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひいたします。

No.	部	名 号	出 品 者		賞・席	備 考
			市町村	氏 名		
1	2	アイスザイレッジ フールースティーブ フタゴ	栗原市	有限会社 小山牧場	2等賞 7席	
2	8	ミヤノウ H ジーニー THF	名取市	宮城県農業高等学校	2等賞 7席	
3	13	イチジョウファーム アメイジング ジャガー	丸森町	一條 薫	1等賞 7席	※ベストプロダクション
4	16	ブラメリア HL ドロシ グレイ	丸森町	有限会社 半澤牧場	優等賞 4席	

※ベストプロダクション：1等賞以上の中から固形分補正乳量の最高のものに対して選賞される。



第2部 栗原市 (有)小山牧場



第8部 名取市 宮城県農業高等学校



第13部 丸森町 一條 薫



第16部 丸森町 (有)半澤牧場

(事務局：(一社) 宮城県畜産協会 家畜改良課)

第65回仙台牛枝肉共進会終了報告

全農 宮城県本部 畜産部

農林水産祭参加 第65回仙台牛枝肉共進会は、11月3日～5日の期間で仙台市中央卸売市場食肉市場において開催され、盛会のうちに終了しました。

《チャンピオン牛》

第1部 黒毛和種 去勢の部

出 品 者 (株)うめつ (JAみやぎ登米)
 血 統 父：百合美 母の父：若百合
 規 格 A-5 BMS No.12 枝肉重量 586.5kg
 せり単価 7,915円

第2部 黒毛和種 メスの部

出 品 者 那須知則 (JA新みやぎ)
 血 統 父：隆之姫 母の父：美津照重
 規 格 A-5 BMS No.12 枝肉重量 475.5kg
 せり単価 7,779円



右：第1部チャンピオン賞

(株)うめつ様

左：第2部チャンピオン賞

那須知則様

1) 出品財の概要について

第1部 (去勢の部)

格付は「A-5」で枝肉重量586.5kg、ロース芯面積は92cm²と大きく、バラが9.7cmと厚く、皮下脂肪厚は2.2cmで歩留基準値は78.5でした。脂肪交雑の形状がよく、均一に交雑しており、肉のしまり・きめ、光沢に優れている点などが高く評価されました。各部が発達していており、厚みがありチャンピオン賞にふさわしい迫力のある枝肉でした。

第2部 (メスの部)

格付は「A-5」で枝肉重量475.5kg、ロース芯面積は73cm²と優秀で、バラが9.8cmと厚く、皮下脂肪厚は2.9cmで歩留基準値は77.0でした。脂肪の光沢、照りに優れており、各部のバランスが良く、筋間脂肪も適度で、肉質豊富な無駄のない枝肉でした。

2) 審査経過

全体については、「枝肉重量」では前回と比較し、去勢が6.8kg、雌は9.7kg増加しました。ロース芯面積は去勢が92.1cm²、メスが78.6cm²と大きく、全体を通じ、枝肉の厚みが増し、肉量と各部のバランスの優れた枝肉が多くみられ、去勢・雌ともに歩留等級は150頭全頭「A」等級となりました。また仙台牛率は去勢で91.8%、メスでは100%と高成績となりました。

「肉質」では平均BMSが去勢10.3、メス10.5と非常に高く、仙台牛の共進会にふさわしい内容でした。ロース芯の面積は昨年と比べ、去勢が0.8cm²、メスが0.4cm²の増加となり歩留基準値を大きく上げる結果となりました。枝肉の切開面のサシは充実したものが多く「肉の色沢」「肉締まり及びきめ」に優れており、細かさ滑らかさに富んだ高品質なものが多く見られました。

生産者の高レベルな飼養管理が見て取れる素晴らしい枝肉が揃っており、レベルの高い共進会となりました。

(生産販売課 茂木 辰也)

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい！」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト (<http://www.keiba.go.jp/>) でもご覧になれます。

(担当：審査部登録課 電話 03-3583-2142)

家畜防疫互助基金（豚）における生産者積立金追加納付のお知らせ

一般社団法人宮城県畜産協会

1 追加納付が必要な理由

今期事業対策期間（令和6年度～8年度）の家畜防疫互助基金は、豚熱の発生が続いたことにより約7割の基金を取り崩す状況となっています。

この要因として、今期の事業開始後に見られた国内における豚熱発生状況の大きな変化があります。

今後も豚熱の速いペースでの発生があり得ると想定したところ、今後の家畜防疫互助基金の円滑な支払いのためには豚生産者積立金の積み増しが必要となりました。

2 追加納付単価について

追加納付単価は、当初積立金の0.6倍となります。ただし、既存契約者と新規契約者では計算方法が違いますのでご注意ください。

【既存契約者の納付額】 契約頭数 × (当初の積立金単価 × 0.6)

【新規契約者の納付額】 (契約頭数 × 当初単価) + (契約頭数 × (当初の積立金単価 × 0.6))

3 途中加入について

現行制度では、制度設計上途中加入を認めてはいませんでした。※

(※新規就農者、新規農場開設者を除く。)

しかし、今回は制度設計を一部見直し、本事業に加入を希望する生産者に対して一定の条件を設定の上、今回に限り、途中加入を認めることとなりました。

4 無事戻しについて

生産者積立金は、事業対策期間（令和6年度～8年度）に対象疾病が発生した生産者への互助金交付見込額を差し引いた残額を、令和9年7月頃に暫定払戻を行い、すべての生産者への互助金交付終了後に、最終払戻を行います。

5 お問い合わせ先

宮城県畜産協会家畜衛生課または事務委託先（JA等）に御連絡ください。

(家畜衛生課 高橋 孝幸)

oo

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

販売月	肉専用種（宮城県）	交 雜 種（全国）	乳 用 種（全国）
令和7年7月 （概算払）	（ — ）	（ — ）	(34,716.8円)
	—	—	41,716.8円
8月 （概算払）	(61,052.6円)	(56.9円)	(26,275.7円)
	68,526.9円	7,277.4円	33,453.9円
9月 精算払	51,081.3円	10,432.8円	33,977.7円

◎肉用子牛生産者補給金（子牛補給金）

令和7年度第2四半期（7月～9月）交付なし

◎優良和子牛生産推進緊急支援事業

令和7年度第2四半期（7月～9月）交付なし

◎和子牛産地基盤強化緊急特別対策事業

令和7年度第2四半期（7月～9月）交付なし

◎肉豚経営安定交付金（豚マルキン）

令和7年度第2四半期（7月～9月）交付なし

感動を呼ぶ製品をめざして
ORION
ハードシステムとソフトシステム
(ビフォーアフターサービス)で
あなたの経営を応援。
これがオリオンの思想です。

中央オリオン株式会社
宮城営業所 〒989-6226 大崎市古川新田字泉屋敷59番4号
TEL : 0229-26-4330 FAX: 0229-26-4338



次の一手を未来につなげたい

総合印刷企業
株式会社 **東北プリント**

〒980-0822 仙台市青葉区立町24番24号
TEL 022-263-1166 FAX 022-224-3986
E-mail mail@tohokuprint.co.jp

家畜の病気と向き合う～子牛の防寒対策を忘れずに～

NOSA I 宮城

11月になり、過ごしやすい季節になりました。地域によっては、朝晩かなり冷え込む所もあるのではないかでしょうか。

一般的に牛は寒さに強いと言われますが、子牛は例外です。これから季節で気を付けていただきたいことは、子牛の防寒対策です。哺乳中の子牛が快適に過ごせる気温は、図1のとおりです。

出生直後の新生子牛が体温を維持できる最低温度は9℃までです。それを下回ると、起立不能、震え、意識混濁などの症状を示し、死に至る場合もあります。

例年11月中旬から子牛（特に新生子牛）の低体温症の診療や死亡事故が増加します。

11月の平均気温については図2のとおりです。

特に、出生直後は体が濡れているため、気化熱で体温が奪われやすい状態です。母牛が子牛を舐めない場合は、バスタオル等で拭き、乾燥させましょう。

また、難産で生まれた子牛は正常産の子牛に比べて体温が低下しやすいため、しっかり乾かしましょう。

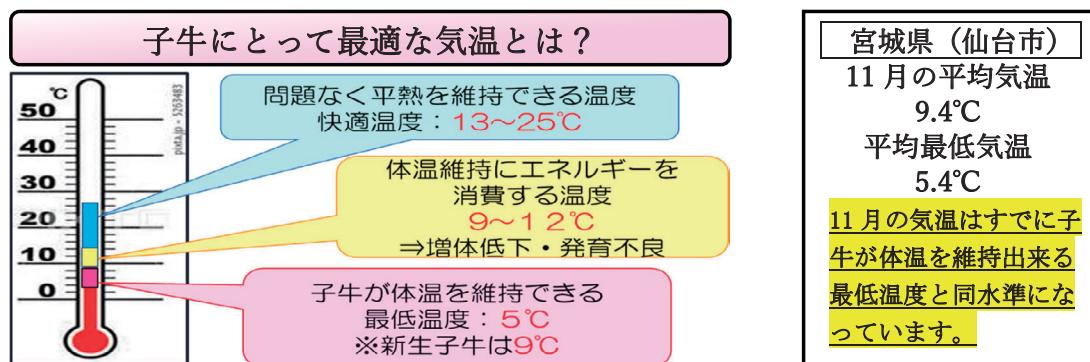


図1

図2

防寒対策には図3のような方法があります。牛舎全体での対策も必要ですが、牛舎を閉め切ると風邪などのウイルスが蔓延しやすくなるため、換気の良い状態を保つつつ、冷たい風が当たらない環境づくりをしましょう。

生まれた子牛が寒さで体調を崩したり、命を落とすことの無いよう、ぜひ防寒対策を見直してみてください。





宮城野豚
ミヤギノ ポーク
宮城野豚銘柄推進協議会

宮城県産黒毛和種



仙台牛
仙台牛銘柄推進協議会

6月1日は

牛乳の日

WORLD MILK DAY

宮城県牛乳普及協会

〈衛生便り〉

ランピースキン病について

宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部

ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスが牛に感染する疾病で、ワクチン非接種下での死亡率は一般に1～5%と低いものの、発熱や乳量減少、流産などを引き起こし、特に全身の皮膚に直径1～8cmの硬い結節（コブ）が形成されることが特徴です。有効な治療法はありません。主な感染拡大経路は、サシバエ、ヌカカなどの吸血昆虫（ベクター）による機械的伝播と、感染した牛の移動です。

本病はもともとアフリカの疾病でしたが、2010年代に中東や南ヨーロッパで発生し、2019年以降アジアにも拡大しました。日本国内では、2024年11月に福岡県で初めて発生が確認されました。同年12月までに、福岡県および熊本県において計22農場、230頭の発症が確認されましたが、2025年以降は新たな農場での発生は確認されていません。

2025年7月28日に施行された政令により、本病はヨーネ病のような法定伝染病と同程度の措置が講じられるようになりました。本病が発生した場合、患畜・疑似患畜の殺処分命令、発生農場や周辺農場の牛の移動制限が行われます。また、周辺の農場に対して緊急的なワクチン接種が実施される場合があります。

本病の農場での対策としては、発症牛の早期発見と速やかな隔離が重要です。特に、ベクターによる伝播を防ぐため、平時から殺虫剤の散布や防虫ネットの設置といった対策を徹底することが重要です。サシバエ対策では、堆肥の適切な発酵消毒（幼虫対策）や、複数系統の殺虫剤を使うことが推奨されます。また、血液を介した感染を防ぐため、注射針などは1頭ごとに交換または消毒を確実に行ってください。

疑わしい症状を発見した場合には、最寄りの家畜保健衛生所・畜産振興部へ速やかに通報いただくようお願いします。

(畜産振興班 佐藤 浩庸)

令和8年度宮城県農業大学校入校生を募集します（一般入校試験後期）

宮城県農業大学校

本校は、農業の近代化と経済社会の発展に対応できる、高度な知識・技術を身につけ優れた農業経営者と農村地域の指導者を育成することをねらいとして設立された農業大学校です。

下記により、令和8年度の一般入校試験（後期）が行われますので、多数の出願をお願いします。

記

◇募集人員（推薦入校試験分を含む。推薦入校試験の募集人員は学部定員の8割程度。）

畜産学部15名、水田経営学部15名、園芸学部15名、アグリビジネス学部10名

◇募集期間 高等学校卒業者（令和8年3月卒業見込みの者を含む）又はこれと同等以上の学力があると認められ、本県農業の振興に貢献する意欲がある者

【宮城県農業大学校HP】

◇募集期間 令和8年1月19日（月）～令和8年2月2日（月）（必着）

◇試験日時 令和8年2月17日（火）午前8時45分～

◇合格発表日 令和8年2月27日（金）午前10時

◇試験場所 宮城県農業大学校本部名取教場

◇試験科目 ①筆記試験 現代の国語及び言語文化（60分）、数学I（60分）、
小論文（60分 800字）

②面接試験 個人面接（15分程度）



◇奨学金制度

①本校を卒業後、宮城県内での就農を予定されている方は、公益社団法人みやぎ農業振興公社奨学金の申請ができます。

②本校を卒業後、就農を予定されている方は、国の事業である就農準備資金の申請ができます。

③独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度が利用できます。

※上記①～③の奨学金の採択に当たっては一定の要件を満たす必要があります。

入校試験・奨学金等についての詳細は、宮城県農業大学校教務部学生班・教務班（電話022-383-8138）までお問い合わせください。

〈畜試便り〉

「特殊肥料等入り指定混合肥料」の利用方法について

宮城県畜産試験場

土づくりや化学肥料使用量低減のため家畜由来堆肥の利用を拡大することが重要ですが、耕種農家は「堆肥は容積が大きく保管性・運搬性が劣る」「専用散布機が必要」「化学肥料より成分が不安定」などの理由で堆肥利用を敬遠しているのが現状です。

令和元年の肥料制度の見直しで、農業者のニーズに柔軟に対応した肥料生産が進むように、堆肥の含水率50%以下という条件はあるものの配合割合や炭素窒素比の規定がなく、加熱乾燥が不要で特別な施設をもたない畜産農家も製造可能な「特殊肥料等入り指定混合肥料」として堆肥と化学肥料の配合が可能になりました。

堆肥の利用拡大に向け、「特殊肥料等入り指定混合肥料」の普及拡大を図るために、堆肥と化学肥料を配合した「特殊肥料等入り指定混合肥料」製造方法、試作した肥料の栽培試験の結果等についてお知らせします。

1. 特殊肥料等入り指定混合肥料の作製手順

堆肥は県内の有機センターで生産された牛ふん主体の堆肥を使用し作製しました。作業工程は下記のとおりで、堆肥を攪拌機に投入した後に化学肥料を入れ約3分間混合するだけの工程です。



2. 「特殊肥料等入り指定混合肥料」の保存性

試作した堆肥を密封し6カ月間保管した結果、水分は保管開始時の80%程度、窒素成分は90%程度となり、変動は少ないとなりました。しかし、保管による堆肥成分の変化は少ないものの作製後期間を置かず使用したほうが良いと思われます。

3. 「特殊肥料等入り指定混合肥料」を使用した栽培試験の結果

試作した「特殊肥料等入り指定混合肥料」を使用し、畜産試験場の圃場でブロッコリーの栽培試験を行いました。試験区の設定はA区（混合肥料一発区）、B区（混合肥料+追肥区）、C区（慣行区：化成肥料）とし、試験区の施肥窒素量は各区とも同量となるようにしました。収量は、試作肥料は慣行の肥料体系と同程度の収量が得られる結果となりました。（図1）また、慣行区と比較して化学肥料が削減されました。（図2）

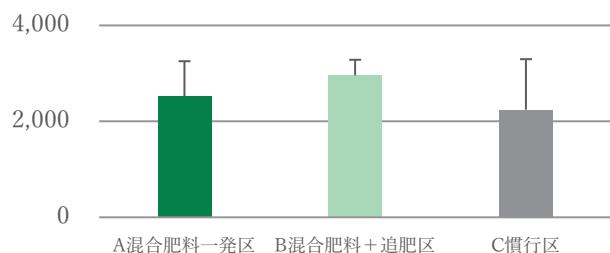


図1 ブロッコリー栽培試験の可食収量(kg/10a)

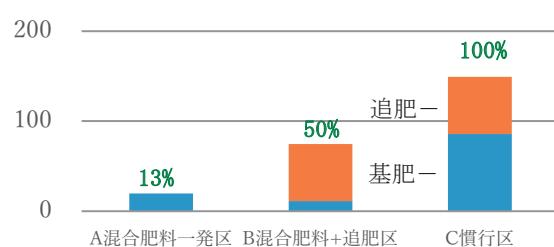


図2 ブロッコリー試験の化学肥料施肥量(kg/10a)

(草地飼料部 半沢 康弘)

NAR 地 方 競 馬 全 国 協 会

岩手競馬（盛岡・水沢開催）12月 開催予定表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
12 月 月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
水沢							水沢							水沢								水沢								水沢

※開催期間中の重賞レース

・12/14(日) 第24回トウケイニセイ記念 ・12/21(日) 第50回金杯 ・12/31(水) 第49回桐花賞

馬事畜産振興の活動報告

宮城県地域畜産振興対策協議会

地方競馬の普及啓発及び畜産物の消費拡大を図ることを目的に、馬事畜産振興推進事業及び地域畜産フェア拡大推進事業において、以下のとおり普及・啓発活動を行いました。

岩手競馬 畜産フェア

令和7年10月12日(日)、岩手県盛岡競馬場において、東北6県の畜産協会等並びに各県馬事畜産協議会の合同による「畜産フェア」を開催しました。

当日は開門と同時に、先着1,170名様に引換券を配布し、特設ブースにて随時各県畜産加工品の引換えを行いました。当日は雨が降る時間帯もありましたが、畜産加工品のプレゼントに来場者は大変喜んでいました。

宮城200名：美里ハムミートローフ・あらびきソーセージ

青森200名：牧場のビーフカレー

岩手200名：エルンテフェスト熟成粗挽きポークウインナー、岩手県産豚もも肉焼豚、いぶしの里ももハム

秋田150名：秋田牛極上カレー、男のホルモン（味噌味）、男のホルモン（塩味）

山形200名：山形牛入り牛すじビーフシチュー、山形印サラミ

福島220名：酪王カフェオレクランチ、酪王カフェオレカントリーマーム、川俣シャモやわらかつまチキ（ソルト味）



畜産物拡大フェア

令和7年10月26日（日）、あすと長町杜の広場公園にて開催されました「どうぶつフェスタin MIYAGI」において、県畜産加工品の無償配布を行いました。

当日は午前と午後の2回、先着計1,200名に配布を行いました。また、バター作りを体験して頂いた参加者に乳製品の配布等も行い、お子さんを中心に大いに盛り上がりを見せました。

さらに、制作した「オリジナル缶バッジ」についても大人気で、早速リュックなどに付けてイベントを楽しんでいる方もいらっしゃいました。

伊豆沼農産：ポークジャーキー

石塚養蜂園：ハニースティック

竹鶴ファーム：くんたま

山田乳業：フロム蔵王極みのむヨーグルト



(事務局：(一社) 宮城県畜産協会)

宮城県動物薬品器材協会(会員名)

(株)アスコ宮城営業所
仙台市泉区泉中央4丁目19-1 TEL022-347-4138

M P ア グ ロ (株)
仙台支店 仙台市太白区富沢南二丁目8-9 TEL022-245-4306

小田島商事(株)
大崎市古川清水字周防10-1 TEL0229-26-4567

(株)アグロジャパン南東北営業部宮城チーム
仙台市泉区八乙女3-3-1 TEL022-343-5301